
もうひとつの逃走中 ゲーム世界に潜むバグ

翡翠 煉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もつひとつの逃走中 ゲーム世界に潜むバグ

【Nコード】

N3157R

【作者名】

翡翠 煉

【あらすじ】

とあるゲーム世界で、逃走者は自らの限界、バグ、そして、ハンターとの対決が始まる！

この作品は、うごメモシアター、およびうごメモハテナのりょうまさんの許可済みです。

キャラクター紹介と特殊ルール（前書き）

もしよければ、この元ネタとなる、りょうまさんの『もっぴとっの逃走中』を見てください。

キャラクター紹介と特殊ルール

逃走者。今回は13名。

レギュラーメンバー

マリオ	目標賞金	120万	HP	100	MP	60
スタミナ	運○					

カービィ	目標賞金	120万	HP	80	MP	50
スタミナ	運○					

ドナルド	目標賞金	120万	HP	120	MP	100
スタミナ	運○					

初音ミク	目標金額	120万	HP	90	MP	90
スタミナ	運					

霧雨魔理沙	目標賞金	120万	HP	100	MP	150
スタミナ	運○					

RPG W (・) RLD

巖島勇吾	目標金額	120万	HP	110	MP	80
スタミナ	運					

宮本翔	目標金額	60万	HP	80	MP	300
スタミナ	運○					

村田豪	目標金額	120万	HP	100	MP	200
スタミナ○	運○					
エルトリーゼ	目標金額	72万	HP	70	MP	130
スタミナ	運○					

ルーンファクトリー

ラグナ	目標金額	120万	HP	100	MP	60
スタミナ	運○					

マイス	目標金額	120万	HP	110	MP	80
スタミナ	運					

アゼル	目標金額	72万	HP	100	MP	40
スタミナ○	運○					

ソニア	目標金額	120万	HP	90	MP	50
スタミナ○	運○					

この13名でおこなわれる。

特殊ルール

HPがあり、これが0になると強制失格となる。

MPを使い、技を使用することができる。

トラップがあり、それにかかると基本的に悪いことが起こる。

見通しのいいところに回復エリアがあり、その上に載ると1秒につき2程度回復できる。

キャラクター紹介と特殊ルール（後書き）

次回はステージ紹介の予定です。

エリア紹介 基本ルール（前書き）

ステージ用のゲームがマニアックすぎますが、ここ愛嬌ということでおねがいします。

エリア紹介 基本ルール

今回のエリアは、ゲーム『ユグドラユニゾン』『マリオシリーズ』『アクションパズルラビリンス』この3つのゲームの世界をつないだ世界で行われる。

中央にキノコタウン、南にはファンタジニア王国、西には新生ブロンキア帝国、東には、アリスの住んでいる森がある。

さらに、ある条件を満たすと宇宙のほつき星の天文台、地下の迷宮にもいけるようになる。

スタートは、各自で決めれる。スタートしてからトラップが始動する。

なお、ハンターは、キノコタウンのピーチ城前から3体が放出される。

基本ルール

制限時間は100分 1秒200円上昇 逃げ切れば120万となる

ハンターに捕まれば確保となりもちろん失格となる。

自首をするには、それぞれキノコタウン、ファンタジニア王国、新生ブロンキア帝国にある城の中にいるピーチ姫か王女ユグドラ、焔帝ガルカーサのうち、だれか一人に自首用コインを渡さなければならぬ。

なお、コインは、ミッションに貢献したら1枚手に入り、自首以外にも使い道があるらしい。

さらに、エリアには宝箱が設置しており、その中には、逃走者に便利なアイテムが入っている。

エリアにはモンスターが出没することもあり、倒せば、アイテムを落とす場合もある。ただし、モンスターを倒すのにはリスクがある。

エリア紹介 基本ルール（後書き）

次回は遂にゲームスタート！

ゲームスタート(前書き)

ちなみに、攻撃、防御、すばやさの隠れ能力値も存在します。

本編では、それぞれ順番に、A、B、Mと表記します。

ゲームスタート

ゲーム開始まで、残り1分。

マリオ「今回はどうなるんだろうな?」

カービィ「レギュラーの名に恥じないように頑張らないと」

ミク「ここのお城大きいですね」

ドナルド「もちろんさあ」

ミク「なんであなたがいうんですか」 (苦笑い)

魔理沙「今回最初のゲームはないが、それでもゲーム前の時間は嫌いだな」

ゲーム開始まで、残り30秒

勇吾「そろそろはじまるか」

ラグナ「今回こそ逃げ切りますよ!」

『
プ
シ
ユ
ー
』

スタート!

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

1
0

ゲーム開始まで、
残り

3体のハンターが開放され、100分のタイマーが作動し始めた。

マリオ「この城の後ろは安全かな？」

ブロンキア城の後ろに隠れている・・・

マリオ「油断はしないように・・・」

豪「さてと、この森からどうしようかな？」

『カチッ』

豪「ん？ なんだ？」

『ヒュンヒュンヒュン』

豪「何だったんだ・・・ まさか！」

実は今回の逃走中のHPとMPは、逃走者に分けられたカードや頭上にある二色のバーで確認することができる。

そして、彼の現在の状況は・・・

豪 HP 100 (100) MP 100 (200)

項目 現在値 (最大値) で書いてある・・・

豪「MPごっそりとられたか・・・まあ、回復すればいいか」

MPも回復することができるとも思えない……

アゼル「こんなところにボタンが……」

『ポチッ』

アゼル「何もおきない？」

上を見る……

アゼル「……うお！」

『ゴン！』

アゼル「……痛い……」

アゼル HP 80 (100) MP 40 (40)

触らぬ神にたたりなし……

カービィ「僕はHPもBも低いからトラップには十分気を付けないとね……」

しかし、その影に……

ハンター「……」

ハンターだ・・・

次回、カービィピンチ!?

そしてミッション1発動!

残り逃走者13名

ゲーム終了まであと96分

続く!

ゲームスタート（後書き）

逃走者の能力タイプ紹介 レギュラー編

マリオ 少し打たれ弱いノーマルタイプ

カービィ インファイトメインのスピードタイプ

ドナルド HPも高いアタックタイプ

ミク 隠密主体のノーマルタイプ

魔理沙 インファイト寄りのマジックタイプ

ミッション1-1 侵食されたハンターボックス（前書き）

RPGW（・・・）RLDのキャラの表記の中の世界に変更します。

それとステージの補足説明

アリスの住んでいる家がある森は、キノコ王国に属している。

さらに、キノコ王国は、ファンタジア王国と新生ブロンキア帝国と同盟を結んでおり、自由に通行ができる。

ただし、ファンタジア王国と新生ブロンキア帝国は、お互いに仲が悪い。

ミッション1-1 侵食されたハンターボックス

カービィ「そろそろハンター来そう・・・来た!」

うまく、ハンターよりも早くハンターの存在に気づく。

ハンター「・・・」

うまくまいたようだ・・・

そのころ、ピーチ城内では・・・

ピーチ姫「なんですか?」

キノピオ兵1「じつは・・・この周辺にて、変な箱が設置されていまして・・・」

ピーチ姫「その箱がどうかしたんですか?」

キノピオ兵1「じつは・・・この城の前にも設置されていまして・・・」

ピーチ姫「箱の中身は・・・?」

キノピオ兵1「まったくもって不明ですが・・・今のところの害はない様子です。ですが、移動させるのは無理のようです」

ピーチ姫「そうですか・・・なら、今のところはそのままとしてお

きましよう。いずれ分かることです』

謎の存在「……」

モニターを見ている謎の存在……

謎の存在「……！」

すると、いきなり画面のハンターボックスが黒い何かに覆われた。

謎の存在「……！」

すると、突然モニターに『PROGRAM ERROR』と表記された。

『ピコーン…』

マリオ「メールだ……」

エルトリゼ「『ミッション1』」

ラグナ「『現在、エリアの5箇所に計6個のハンターボックスを設

置した。『ハンター開放されるようですね・・・』

ユーゴ「ゲーム終了残り85分に、ハンターが解放される」あまり時間がないですね・・・」

ドナルド「ハンターボックスを封印するには、ハンターボックスについているレバーを下げればいい。『簡単だね』」

ミッション1 ハンターボックスを封印せよ

キノコタウン噴水付近 アリスの家の前 ファンタジニア王国城下町区 ブロンキア城門前 ピーチ城前の5箇所にハンターボックスが設置された。

ただし、逃走者に場所は知らされてはいない。

ピーチ城前の掲示板にハンターボックスの場所が書いてある。

ゲーム終了残り85分までにレバーを下げて封印しなければその分のハンターが開放される。

尚、ピーチ城前には2個のハンターボックスが設置しており、二人同時にさげなければならない。

一見簡単そうに見えるミッション

しかし、このミッションには重要な秘密が隠されていた・・・

ラムダ「お、ちょうどハンターボックスがあった」

封印しようとするが・・・

ラムダ「よし、封印・・・あ？」

レバーを下げるはずなのに、またレバーがあがっている。

ラムダ「おいおい、なんでこうなんだよ・・・」

次回、ミッションの全貌が明らかになる！

残り逃走者 13名

ゲーム終了残り 94分

続く！

ミッション1-1 侵食されたハンターボックス（後書き）

逃走者の能力タイプ紹介 R P G W (. .) R L D 編

ユーゴ インファイトのアタックタイプ

シヨウ 魔法主力のエンチャントタイプ

ラムダ 魔法重視のノーマルタイプ

エル 魔法重視のスピードタイプ

ミッション1・2 ミッションレベル急上昇!! (前書き)

そういえば、ブレイブルーの新作が3DSで出るようですな。

とても楽しみですけど・・・

ルーンファクトリーがまったく進まないです・・・

3DSも持ってません・・・

ミッション1-2 ミッションレベル急上昇!!

マイルス「ここは・・・ピーチ城ですよね・・・城って、結構大きい
ですね・・・ん？」

掲示板『キノコタウン近辺に謎の箱現る!』

マイルス「これって・・・ハンターボックスですよ・・・!　ここ、
れは!」

マイルスはメールを打ち始めた・・・

マリオ「よし、ハンターボックスを見つけたぞ!」

ブロンキア城の前にいるマリオ・・・

マリオ「よし、封印・・・って、できないじゃねーか!」

ラムダ同様・・・封印不可能・・・

魔理沙「ここからはブロンキア城が近いかな?」

マリオがそこにいることを知らずブロンキア城を目指す・・・

しかし・・・忍び寄る黒い影・・・

ハンター「……！」

見つかった……

魔理沙「よし、行くか……！ み、見つかった！」

ある程度距離はあったのだが……運がなかった……

『グオオン』

魔理沙「痛っ！」

たらいだ……

魔理沙「ああ、痛かった……」

衝撃によりハンターが向かっていることを忘れてしまい……

『ボン』

魔理沙「ん？ え、いたの！」

たらい……恐るべき。

霧雨魔理沙 確保 残り12名

『ピコンー』

ミク「メールです！」

マリオ「魔理沙確保・・・一人捕まるとすぐにまたつかまるんだよな・・・」

ユーゴ「ん？ もう一件メールがあるな・・・」

ラグナ「『マリスからのメール』」

アゼル「『どうやら、ハンターボックスを封印するのに、順番があるらしいです』」

ドナルド「『キノコタウン噴水広場にある赤、アリスの家前にある青、ファンタジニア城下町にある黄色、ブロンキア帝国の城門前にある緑、そして、ピーチ城前にある黒のハンターボックスで下げるようです』あらー！」

マリオ「『あと、ピーチ城前には、ハンターボックスが二つあるのので気をつけてください』ここ4番めかよ！」

そう、先ほどのバグにより、封印の順番が制限されてしまったのだ！

エルトリゼ「よかった・・・この近くにハンターボックスがあるようだ・・・」

噴水広場の近くにいたエルトリゼ・・・

エルトリゼ「あった！ 封印します！」

『ガシャン!』

ハンターボックス封印 残り5体

ゲーム終了残り88分

このままでは、5体のハンターが開放されてしまう・・・

次回に続く!

ミッション1・3 そしてハンター開放か・・・(前書き)

HPまったく登場してない・・・

ミッション1-3 そしてハンター開放か・・・

ラムダ「そろそろいいかな・・・？」

ガシヤン

ラムダ「お、封印できた！」

ハンターボックス封印 残り4体

ラムダ「あと3箇所だな・・・」

カービィ「ファンタジニアって、ここだよね？」

そのころ、カービィはファンタジニア王国。それも、ハンターボックスまであと100メートルまで近づいていた・・・

カービィ「あ！ 見つけた！」

ハンターボックスを見つけたカービィ

しかし、その近くに・・・

ハンター「・・・」

ハンター

カービィ「よし、封印できるかな？」

ガシヤン

ハンターボックス封印 残り3体

カービィ「よし、封印できた・・・あ！ 見つかった！」

ハンター「・・・！」

見つかった・・・

カービィ「やばい！」

ハンターとの距離が、少しずつ縮まっていく・・・

『カチッ』

カービィ「・・・へ？」

『ピュウウウン！』

ミク「・・・へ？」

『ポン』

ミク「なんで私はここにいるの!?!？」

初音ミク 確保 残り11名

ちなみに、先ほどカービィの踏んだトラップは・・・

カービィ「あ、ここって・・・ピーチ城だ!」

先ほどミクがいたピーチ城前にいた・・・つまり先ほどのトラップは、別の逃走者と場所を入れ替えるワープトラップだった・・・

カービィ「あ! ミッション終了まで残り1分!? 逃げなきゃ!」

この場から離れるカービィ・・・

マリオ「やばいな・・・」

ブロンキア城の城前にいるマリオ・・・

マリオ「おろしてから逃げよう!」

『ガシヤン』

ハンターボックス封印 残り2体

マリオ「お、封印できた! なら、もう少しここにいるか」

マリオは、封印できたことにより、ここで待機することにした。

ハンター開放まで後30秒・・・

マリオ「ほかのやつが封印してくれますように・・・」

カービィ「封印してくれたかな・・・」

ドナルド「封印してくれたかな？」

ユーゴ「シヨウ！ あと50メートルくらいだ！」

シヨウ「ちよっ、ユーゴまって！」

ラムダ「俺も一応貢献したからな・・・」

エルトリーゼ「ハンターいますね・・・」

ラグナ「ミスさん、ミッションいっても遅いですよね・・・」

ミス「そうですね・・・」

アゼル「ミッションクリアできたのかな・・・」

ソニア「これでハンター増えたら自首しようかな・・・」

ハンター開放まで残り20秒

ユーゴ「シヨウ！ 早くこい！」

シヨウ「分かってるよ！ よし、やるじー！」

ユーゴ「せーの！」

『ガシャン』

ミッションクリア

ユーゴ「よし、クリアしたようだ・・・」

シヨウ「そうだね・・・」

しかし、そのとき二人は・・・

『ドロン』

この短い音を聞き逃していた・・・

『ピコニー』

マリオ「メールだ……」

カービィ「『ミッション1結果』来た！」

ラムダ「『エルトリーゼ ラムダ カービィ マリオ ユーゴシ
ヨウ の活躍によりハンターボックスをすべて封印した』お、みん
なやっつてんじゃないか」

アゼル「『それによりハンターの解放はない』よかった……」

しかし……森から、何かがピーチ城へと近づいていた……

次回！ まさかのバトル！？

ゲーム終了まであと84分

逃走者残り11名

続く！

サブミッション：1 100体狂化？クリボー襲来！（前書き）

サブミッションは普通のミッションとは違い基本メールが送られないか通達としてきます。

サブミッション・1 100体狂化？クリボー襲来！

森。

ここにいたのは、少し色が濃いクリボー……

それも百体……

『ピコンー！』

先ほどの音は普通の人には聞こえない……

このクリボーだからこそ聞こえたのだ……

クリボー「！」

すると百体のクリボーは音のなったピーチ城へと向かっていった……

ラムダ「なんだ？ クリボーか？ それにしちや色が変か？」

森にいたラムダはクリボーを見つけた。

クリボー「！」

ラムダ「向かってきた……いいぜ！ 相手してやろう……サモンデーモン！」

• そういい、ラムダはAデーモン（アイスデーモン）を召喚したが・

Aデーモン1「」

ラムダ「な！」

2体のうちの1体がすでに一度の攻撃で倒されていた・・・

ラムダ「あのクリボー強すぎないか・・・」

Aデーモン2「GU・・・」

そして、今度はもう1体を攻撃するが、なかなか倒されない・・・

そして、ラムダはひとつの答えを導き出した。

ラムダ「即死攻撃か・・・」

そう、百体クリボーは即死攻撃を使えたのだ。

即死が発動する以外はただの普通より強いクリボーであれば、アイスデーモンの戦闘結果が矛盾しない・・・

ラムダ「しかたない・・・このままだと・・・！ やばいな・・・」

そう、彼の前では即死攻撃使いのクリボーが。

そして後ろにはハンターがいる・・・

ラムダ「やばいな……」

『ボン』

ラムダ「やっぱつかまったか……」

ラムダ 確保 残り10名

クリボー残り戦力87体

こうしてクリボーはピーチ城へと進んでいく……

アゼル「ここからは頑張らないと……」

『ボン！』

アゼル「……」

アゼル HP40/100

逃走者はクリボーを殲滅できるのか……

そして、その代償とは……

残り逃走者10名

ゲーム終了残り80分

続く！

サブミッション・2 強いよ！ ランランルー！

マリオ「そろそろ移動は・・・まだいいか」

まだハンターボックスの前にいるマリオ。

クリボー「突撃い！」

クリボーたちはキノコタウンにたどり着いた・

牢獄トーク

魔理沙「まさか最初につかまるとは・・・」

ミク「私なんて突然何が起きたか分からない間につかまっただんですよ・・・」

『ピコンー！』

魔理沙「メール・・・確保情報だっ」

ミク「あ、来ましたね」

ラムダ「畜生・・・あのクリボー強すぎる」

魔理沙「クリボーって・・・あ！」

ミク「まさかそのクリボーって！」

ラムダ「色が濃かったぞ」

魔理沙「それは即死のうえ基本的に普通より強いからな」

ミク「でもミッションきてませんよ」

魔理沙「まあ、昔話の金太郎みたいなもんだろっ」

ラムダ「そういえば、コインを拾ったぞ。13枚・・・あれ？
コインがない」

ユーゴ「おい、町が騒がしくないか？」

シヨウ「たしかに・・・あ！ なにかこっちに向かってきてるよ！」

ユーゴ「ほんとだ！ 住人たちはそれから逃げて騒がしいのか！」

シヨウ「早く倒したほうがいいよ！」

ユーゴ「そうだな！」

ユーゴ「ついた！」

シヨウ「あ、ユーゴ！ ドナルドがいる！」

ユーゴ「そうだな・・・！ シヨウ！ いったん逃げろぞ！」

シヨウ「え、ユーゴ！ いきなりなんだよ！」

ドナルド「ドナルドはうれしくなるとついやってっちゃうんだ」

クリボー「いくぞ！ こいつらをやっつける！」

ドナルド「ランランルー！」

クリボー「87体」ぎゃあああああああああ！」

クリボー 全滅

ドナルドMP100 25

ドナルド「あ！ コインがたくさん落ちてるよ！」

ユーゴ「シヨウ。俺、ひとつわかったことがあるんだが・・・」

シヨウ「奇遇だね。ユーゴ。僕もひとつわかったことがあるよ」

「ドナルドは俺（僕）たちよりも格段に強い・・・」

謎の存在「・・・」

コイン獲得枚数 100

謎の存在「・・・」

コイン獲得枚数 0

賞金単価 200円 300円

『ピコン！』

マリオ「メールか」

カービィ「えーつと・・・『通達1』」

エルトリゼ「『逃走者の合計取得コインが100枚以上になったため、ゲーム終了残り75分から賞金単価を1秒300円にする』
誰がとつたんだ・・・」

アゼル「『それにより、逃走成功の賞金が120万から165万と
なった』やった！」

逃走者が喜ぶ中・・・

ある場所ではまたミッションが起きようとした・・・

ゲーム終了残り86分

残り10人

続く！

サブミッション・2 強いよ！ ランランルー！（後書き）

そういえば、明日は俺の誕生日です（黙）

ドラマ バグの黒人形

そのころ、エリアの外では、王女と焰帝がそれぞれ別の場所へと軍を進めていた……

ユグドラ「皆さん！頑張りましょうー！」

「「「「「おおおおお！」「」「」「」

ユグドラ「つと……ん？ あれは何かしら……」

ユグドラの目の前にあるのは真っ黒い石……

ユグドラ「真っ黒くて、何かいやな……！」

すると、突然石が人の形になり、ユグドラへと突き進んできた！

ユグドラ「え、な、なんできゃああああ」

すると、人のような黒いものは、ユグドラの頭の中に入っていった……

ユグドラ「……」

パタ……

ユグドラは倒れた……

「大変だー！」

「とりあえずもどるぞー！」

「わー」

ユグドラ「う……」

「王女様！ 少し辛抱を！」

そのころ……

ガルカーサ「ぐ……ヴ……」

こちらでも同じことがおきていた……

謎の存在「……」

謎の存在は、賞金減額＋リセットを押した……

ファンタジニア城の医務室に賞金単価減額装置が。

ブロンキア城の医務室に賞金リセット装置が設置された……

謎の存在「……」

すると、何者かが謎の存在へと近づいてきた。

R「賞金が増えたあとにすぐ減らすとは。あなたもひどいですわね」
謎の存在「・・・仕方ないだろ。今回はそれほど重大なミッション
なんだからな」

R「ま、たしかにね。さて、逃走者はどう動くかしらね」

謎の存在「・・・ああ。私もこの実験には心底楽しんでいるからな」

ゲーム終了残り75分

次回。まさかの難関ミッションスタート！

続く！

ミッション2・1 城の中へと・・・（前書き）

前回ファンタジニア城と表記しましたが、パルティア城と表記させていただきます。

しかし、作者は本当は何城なのかは知りません。

そして作者は今回読み直して宝箱と自主用コインを思い出したww

ミッション2-1 城の中へと・・・

『ユクナー』

マリオ「ミッションか・・・？」「ミッション2 賞金単価減額&賞金リセットを阻止しろ」

勇吾「『ファンタジニア王国のパーティア城に賞金単価減額装置、ブロンキア帝国のブロンキア城に、賞金リセット装置を設置した』な！」

ラグナ「『ゲーム終了残り65分に装置が起動してしまい、賞金単価減額装置が起動すれば賞金単価は1秒100円となり、賞金リセット装置が起動すれば賞金がリセット。0からの再スタートとなる。』
『うわ・・・ひどくない？』

カービィ「『阻止するには、機械の前にあるレバーを下げなければならぬ。』あ、意外と簡単そうだ！」

エルトリゼ「『しかし、逃走者はこのレバーをおろすことはできない。』な！ じゃあどうすれば・・・」

アゼル「『レバーをおろせるのは王女ユグドラと焔帝ガルカーサの

みである。『つまりこの二人に頼めと・・・』

ミッション2 賞金リセット&賞金単価減額を阻止せよ。

パルティア城には賞金減額装置、ブロンキア城に賞金リセット装置が設置された。

ゲーム終了残り65分になると装置が起動され、賞金単価が一秒100円となり、賞金もリセットされてしまう。

阻止するには、王女ユグドラと焰帝ガルカーサにそれぞれ装置停止のレバーを下げてもらわなければならない。

ミッションの結果による逃走成功時の比較

ミッションクリア 165万

減額のみ阻止 117万

リセットのみ阻止 87万

ミッション失敗 39万

マリオ「さすがに39万は悲しいな・・・」

ミッションに向かうようだ・・・

ユーゴ「そつえばさ、シヨウ」

シヨウ「ミッション行っちゃってこと？」

ユーゴ「あー、それもあるが・・・コインもらったよな」

シヨウ「自主するの？」

ユーゴ「いや、これミッションで使うんじゃないのかなーって思ってるが・・・」

シヨウ「ありえるね・・・で、ミッションどつする？」

ユーゴ「行くか！　ここから近いのはブロンキア城だ！　そつちに向かおう！」

こちらにもミッションに向かうようだ・・・

アゼル「もうHPがないけど・・・」

残りのHPが半分以下のアゼル・・・

しかし目の前には・・・

アゼル「ボタンがあるんだよね・・・」

正直、人は目の前に赤いボタンがあると押したくなる・・・

そして、彼もその例から外れず・・・

『ポチッ』

押してしまった・・・

アゼル「ああ、またやっちゃったよ・・・」

そっぴい、その場から離れるアゼル。

アゼル「ここから離れろ！」

落とし穴だ・・・

アゼル 残りHP 40 10

アゼル「ついてない・・・何だろう・・・」

しかし、穴の外には宝箱が二つあった・・・

カービィ「よし、パーティア城についたぞ！」

パーティア城にたどり着いたカービィ・・・

カービィ「つーか僕またここに来てたよ・・・」

といいつつ、城の中に入ろうとすると・・・

兵士A「ちょっと待て！」

カービィ「うわっ！ な、なんですか！？」

兵士B「ユグドラ様なら今は病に倒れている！」

カービィ「は！？」

兵士A「だからここを通りたければ後日病が治ってからにしろ！」

カービィ「あの一・・・」

兵士A「なんだ？」

カービィ「どんな病気なんですか？」

兵士A「原因不明だ。だが、占い師は赤い薬草であるレッドペツパーが3グラム、ブルーペツパーが2グラム、グリーンペツパーも2グラム。そしてサニリーフが3グラムを混ぜたものを混沌の赤い石と同時に飲ませればいいといっているのだが・・・」

カービィ「じゃあ買ってきてきますよ！ どこで売ってますか？」

兵士B「分かればすでに買ってるよ。実はこれらはキノコ王国のほうで売っているのだが、そっちももう売り切れていて、流れの商人からかうしかないんだよ・・・」

カービィ「え、じゃあその商人がいなかったら・・・」

兵士A「ああ、しばらくはユグドラ様は寝たきりだな。意識もないんだし」

カービー「そうですか・・・」

そう！

それぞれ現在理由不明の病気により意識不明。

レバーをおろしてもらうには、正しい調合素材を渡さなければなら
ない！

アゼル「やっと穴から出れた・・・」

ゲーム終了残り72分

続く！

ミッション2・1 城の中へと・・・（後書き）

賞金間違ってるかも・・・

今回登場したレッドペッパー、ブルーペッパー、グリーンペッパーとは、マリオアンドルイージRPGシリーズに登場するアイテムですが、今作では、漢方薬の一種として扱っております。

ミッション2・2 遅れた差し入れ

マリオ「帝国のほうに行けば・・・」

マリオは近い帝国のほうへと向かう・・・

ユーゴ「よし！ そろそろ向かおう！」

翡翠 煉「ちょっと待った」

シヨウ「へ？」

翡翠 煉「ミッションいくらちよっと待ったほうがいいよ」

『ピコンー！』

ユーゴ「メールか。 『通達2』 なんだ？」

シヨウ「『実は君たちにあるものを渡し忘れていた』 え？」

カービィ「『それは混沌石だ』 まさか・・・」

マイルス「『ゲーム終了残り60分までその石をキノコタウンのどこかにいる翡翠煉が配布している。』 なんなんに使っただろう・・・」

ソニア「『なお、石はひとつしかもらえず、さらに、石は2色あり、それぞれ7個しかない』何の色だろう……」

ユーゴ「つまり石をもらわないといけないとミッションクリアできないのか？」

翡翠 煉「まあ、そうだな」

シヨウ「じゃあ何色があるの？」

翡翠 煉「赤と青」

ユーゴ「赤で」

シヨウ「じゃあ青で」

翡翠 煉「じゃあ、どうぞー」

アゼル「やっと復帰できた……ん？」

アゼルの目の前には宝箱

アゼル「……あけようかな……」

マリオ「よし、入ろうか」

兵士A「ここは通さない！」

(省略)

兵士A「ここを通りたければレッドペッパー5グラム サニリー
フ5グラムを混ぜたモノと、それと混沌の青い石を持ってきて欲
しい」

マリオ「分かった！」

ゲーム終了残り69分

続く！

ミッション2-3 はたして二人の運命は？下準備編

ミッション終了まで後4分・・・

アゼル「宝箱の中は・・・キノコ？」

でてきたのは、いかにも毒キノコっぽいがらのキノコ。

アゼル「・・・マリオさんに写真送って鑑定してもらおう・・・
もうひとつは・・・」

出てきたのは、なんと、ユグドラ王女の病気を回復させるためのアイテム一式がそろっていた！

アゼル「一応持っていこう・・・ ミッションにもいこう。ここはファンタジアだからすぐそこだ！」

なんと、運よくミッションの場所に近かった！

マリオ「ん、メール？ アゼルからか・・・」このキノコって食べれますか？『えーっと・・・お！』

アゼル「よし、城前についた。 あ、マリオさんのメールだ。 えーっと・・・』たべれるもなにも、HPがぎりぎりまで低いときにたべたほうがいいぞ。それを食べれば、そのあとじわじわ体力が回復するから『・・・よし、今食べよう。』

アゼルHP10 30 32 34・・・

じわじわキノコ 効果 HPを回復。その後一定時間回復エリアにいる効果を持つ。回復エリア効果は重複する。

アゼル「って、あと2分しかない！」

マリオ「おい、ユーゴ、大変だ！」

合流した帝国ミッション挑戦派・・・

ユーゴ「マリオ、石はあるぞ！」

シヨウ「まさかまだなんかあるの・・・」

マリオ「ああ、どうやらレッドペッパーとサニリーフをそれぞれ5グラムと青い石が欲しいらしい」

ユーゴ「な・・・」

シヨウ「も、もう時間が！」

と、そこに・・・

商人「あー・・・誰も買ってかないな・・・」

3人「『いた!』」

商人「うお! びっくりしたな・・・」

マリオ「って、どっかで見たことがあるような・・・ っ、って、ルイ
ージじゃねーか!」

商人は変装したルイージだった。

マリオ「まあ、レッドペッパーとサニリーフをそれぞれ5グラム
くれないか?」

商人「2枚つてところかな?」

ユーゴ「マリオ、1枚ずつでいいな」

マリオ「ああ、時間がない、急ごう!」

商人「まいどありー」

マリオたちもミッションクリアに向かう!

アゼル「あのー、通して欲しいんですけど・・・」

兵士A「だめだ!ここを通りたければ (略) が必要だ!」

アゼル「そんなもの・・・ あ! まさかこれですか?」

兵士A「！いいだろう、ついて来い！」

マリオ「あと1分だ！」

ユーゴ「もう間に合わないかもしれないが・・・」

マリオ「でもぎりぎりまで頑張ろう！」

さて、ミッションの行方はいかに・・・

続く！

ミッション2・4 はたして二人の運命は？決着 そして・・・編（前書き）

前回、名前にミスがありました。

ラグナではなくアゼルでした。

ミッション2-4 はたして二人の運命は？決着 そして・・・編

SIDE パルティア城

兵士「おい、これでいいんだよな！」

占い師「・・・大丈夫です」

アゼル「速くお願いします！」

占い師「・・・よしできた」

アゼル「速！」

兵士「早くユグドラ様に！」

占い師「大丈夫です。もういいはずですよ」

兵士「早！」

ユグドラ「ううん・・・ここは・・・」

兵士「やった！ユグドラ様の目が覚めたぞ！」

ユグドラ「ん？このレバーは・・・」

『ガコン』

アゼル「・・・へ？」

ミッションクリア（賞金単価減額阻止）

兵士「あ、ありがとな！ おかげでユグドラ様が目覚めた！」

アゼル「は……はあ……」

ユグドラ「貴方のおかげで私は目覚めたようですね……」

占い師「……そうですよ」

ユグドラ「何かお礼したいですが、なにかありますか？」

アゼル「えつと……」

ユグドラ「迷っていますか。なら、これをどうぞ」

アゼル「これは……？」

ユグドラ「私にはよくわかりません。ですがきつとこれがやくにたちます」

アゼル「……ここに効果かいてますね」

ユグドラ「……」

兵士「……」

占い師「……」

アゼル「……すいません、見間違いました」

空気が……重い

アイテム 時進みの時計

時計のスイッチを押すと時間が強制的に3分短くなる。

SIDEブロンキア城

マリオ「ついた！」

ユーゴ「あと30秒！」

シヨウ「もう無理だよ！」

兵士「持ってきてくれたか！ 来い！」

占い師「早く素材を」

マリオ「受け取ってくれ！」

占い師「ちょっと待て。すぐ作る」

ユーゴ「……あと10秒……」

シヨウ「やばいよ！ もう時間が！」

占い師「できました」

兵士「早く！」

占い師「大丈夫です」

3・・・

2・・・

1・・・

ガルカーサ「・・・城の医務室の天井だな・・・」

0・・・

ミッション失敗！ 賞金リセット！

マリオ「終わった・・・」

ユーゴ「リセットされたか・・・」

シヨウ「！ でも賞金単価は減ってないよ！」

『ピコンー』

カービー「メールだ・・・内容は分かるからいいや・・・」

エルトリーゼ「『ミッション失敗 賞金がリセットされた』な・・・」

ソニア「『しかし、アゼルの活躍により賞金単価減額の阻止に成功した』お、すごい！」

ドナルド「『これにより、逃げ切ったときの賞金は117万円となる』あ・・・」

マリオ「間に合わなかったか・・・」

ガルカーサ「？ お前たちが助けてくれたようだな」

ユーゴ「一応ですが・・・」

ガルカーサ「ならお礼がしたいのだが・・・」

3人だつたらこれになるな」

と行ってだしてきたのは、大きな金平糖のようなものだった。

マリオ「これは・・・あれだな」

ユーゴ「あれだな」

シヨウ「あれだね・・・」

ガルカーサ「宇宙から降ってきたものなんだ。大切にしてください」

アイテム スターピース

さまざまな方法で使える。

そして・・・

時間が・・・

64:03

64:02

64:01

64:00

時間が止まり・・・

ハンター「・・・」

ハンターも止まった・・・

ゲーム終了残り64分（なぜか停止中）

次回、何かが始まる

続く！

ミッション2・4 はたして二人の運命は？決着 そして・・・編（後書き）

今回の反省点

いろいろと二番煎じ。

ドラマ 謎の石版(前書き)

ゲームの時間を止めたのですが、普通の時間は普通に進んでいます。

ドラマ 謎の石版

森の中……

アリスの家にはもちろんアリスとうさぎのラビがいた。

アリス「ひまね……」

ラビ「そうだ……！」

ラビはすぐ家から飛び出した。

アリス「ちょっと、ラビ！ どこ行くの！」

ラビ「よっと」

アリス「ちょっと、待ちなさい！」

そういい、二人（正しく言えば一人と一匹）は穴の中に飛び込んだ。

アリス「……ここは……」

ラビ「なんか石版があるのは分かるけどね」

アリス「でもなんて読むのかは分からないのよね……」

ラビ「でも城の人だったら分かるんじゃない？」

アリス「そうね。じゃあ誰かに持っていつてもらいましょう」

ラビ「え、なんで自分で持っていかないの？」

アリス「一気に持っていつて壊れたりしたらどうするのよ」

ラビ「そうだね」

アリス「じゃあ、1枚ずつ家まで運びましょうか」

ラビ「そうだね」

謎の存在「あの石版……どこかで見たような……」

F「大変です！ 大変です！」

謎の存在「ど……どうしたんだ!？」

F「エリアに大量のバグが流失しています！」

謎の存在「な……! そうなるとまさかあれは!」

F「とりあえずどうしましょうか!」

謎の存在「しょうがない……そのままゲームを進めよう」

R「あら、ゲームの時間を止めてしまった本人がなにを言うんですか」

謎の存在「大丈夫だ。時間を止めたのには理由がある」

R「それはなんでしょう？」

謎の存在「それはな・・・」

R「それは面白そうですね」

F「さすがマスターですね！」

謎の存在「さあ、ここからどうなるのだろうか」

次回 何かが起きる

続く！

サブミッション2-1 ボーナスゲーム 賞金ボーナスを手に入れる！(前書き)

煉「ルール変更 ここからは走ったら少しずつHPを減らします」

マリオ「走るだけでも減るとか・・・」

サブミッション2-1 ボーナスマゲーム 賞金ボーナスを手に入れる！

『ピコニー！』

マリオ「ミッションか？ 『通達3』」

ユーゴ「これより、ゲームを一時中断して、賞金ボーナス獲得ゲームを行う』お！」

シヨウ「成績によっては最高27万が賞金に追加される』やるしかないでしょ！」

アゼル「ただし、参加可能者は9名まで。そして、参加者にはリスクを背負ってもらう』リスク？」

ラグナ「参加するものはアリスの家の前に来て欲しい。これは強制ではない』・・・行こう！」

このゲームに参加するのは・・・

マリオ「行くぞ！」

ユーゴ「俺も行く！」

シヨウ「僕は・・・行こう！」

カービー「まあ、大丈夫かな？」

アゼル「ほかの人に任せます」

ソニア「私はいくわ！」

エルトリーゼ「私は・・・行きます」

マイルス「行きます！」

ラグナ「じゃあ、俺も」

ドナルド「ドナルドは、今回はやめとくんだ」

参加者は8名のようにだ。

その間に、全員が石を手に入れましたww

赤 マリオ

ユーゴ

マイス

ラグナ

青
アゼル

ソニア

エルトリーゼ

カービィ

石を使うところがまだあるようです。

アリスの家前

マリオ「結局、どうするんだ？」

アリス「あ、あなたたちが石盤をもって行ってくれるんですね。ありがとうございます。これが説明の紙です」

8人「えーっと・・・」

ルール

1 制限時間は10分。それまでにお城に持っていけば賞金加算

- 2 ピーチ城に持っていけば+2万 パルティア城やブロンキア城なら+3万 ただしアイテムがもらえる可能性もある
 - 3 トラップも作動する。
 - 4 ハンターに捕まったりHPが0になれば本線でも確保扱い。
 - 5 ただし、石版を渡せなかった場合は何もなし。
- アリス「みなさん。よろしく願いします」
- ゲームスタートまで後10秒・・・
- マリオ「なんかちょっと変なゲームだな」
- ユーゴ「というか、畏なきがしてきた・・・」
- シヨウ「まあ、大丈夫でしょ」
- エルトリーゼ「大丈夫なのか・・・」
- アゼル「速く持つて行こう！」
- マイルス「ピーチ城行きます」
- ラグナ「じゃあ僕はブロンキア城へ・・・」
- ソニア「速く行きましょ！」

ボーナスゲーム スタート！

ボーナスゲーム終了まで残り10:00

残り逃走者8名

加算賞金0万円

続く！

サブミッション2-2 ボーナスゲーム 突然の突風(前書き)

次回作の許可の一方を申請中です。

そういえば前回アゼルがほかの人に任せるといったのに参加していません。

理由は何者かによって連れて行かれた。ということにしておいてください。

サブミッション2-2 ボーナスメージック 突然の突風

10分のボーナスメージックが始まると同時に、エリア全域で・・・

ピーチ城

市民1『・・・あれ？ 強い風だな・・・』

市民2『大丈夫でしょ』

ファンタジニア王国

市民3『こんなに強い風なんて・・・なんだろう』

市民4『大丈夫であってほしいな・・・』

ブロンキア帝国

市民5『風が冷たいな・・・』

市民6『冷たい・・・というか不快だな』

森

マリオ『風・・・？』

シヨウ「あ！ みんな、エンチャントをかけるからみんな来て！」

ユーゴ「そうか！」

エンチャントが効き、全員の全部の能力が一時上昇した！

マリオ「これで一気に行くぞ！」

全員「おー！」

マリオ「よし、俺はピーチ城行く！ ピーチ城行く人は全員ついて来い！」

アゼル「じゃあ行きますー！」

マイルス「僕もそつちに……」

ユーゴ「ブロンキアには突撃覚悟で行く！」

ラグナ「は……はい……」

ソニア「行くなら速く行ったほうがいいからね！」

シヨウ「じゃあファンタジニアのほうに行こうか」

エルトリーゼ「ああ、そうだな」

マリオ「・・・案外簡単についたな・・・」

アゼル「こんなに簡単に6万獲得できるんだ・・・」

マイルス「ということはほかのエリアにはハンターが固まってる可能性もあるね・・・」

簡単にここまでついた3人はピーチ城に入っていった。

ボーナスゲーム終了まで残り7:32

残り逃走者5名

加算賞金6万円

続く！

サブミッション2-3 ボーナsgame 苦勞してる人たちは・・・

ピーチ「その石版は？」

マリオ「森で見つかったらしいですが・・・」

ピーチ「もしかしたら貴重なものなのかも・・・ 謝礼を渡します
」！

すると、3人の目の前にキノコが現れた。

マリオ「これは・・・ライフアップキノコ!？」

アゼル「これは・・・?」

マイルス「なんでしょうか・・・?」

ピーチ「まずは、このオレンジ色のキノコはライフアップキノコ。
体力を限界以上に回復させます。」

次に、この赤いキノコはツインキノコ。食べると体力を回復させ、
さらに一定時間移動速度を上げます。」

最後に、この雷柄がはいったキノコはビリビリキノコ。食べて一定
時間は触った相手にダメージを与えます」

マリオ「これを貰ってもいいんですか・・・?」

ピーチ「はい。どうぞ」

マリオ ライフアップキノコ

アゼル ツインキノコ

マイルス ビリビリキノコ

をそれぞれ手に入れた。

S I D E ブロンキア帝国特攻派

ユーゴ「早く行くぞ！」

ラグナ「はい！」

ソニア「！目の前にハンターが！」

ハンター「……」

しかし、まだ気がついていないようだ……

ユーゴ「ちょっと回り道しよう」

ラグナ「そうだね……」

『カチッ』

ユーゴ ソニア 確保 残り逃走者3名

これで事実上ブロンキア城に向かった逃走者は全滅した・・・

S I D E ファンタジニア王国進行派

シヨウ「お城まではあと、200メートルくらいだね」

エルトリゼ「そうだな・・・」

しかし、その背後にハンター・・・

さらに、先の十字路の右にもハンター・・・

シヨウ「よし、走ろうか」

エルトリゼ「ああ。近くにハンターがいるかもしれないからな」

二人はハンターにきずいていない・・・

ハンター「！」

しかし、背後のハンターは二人を見つけていた。

シヨウ「後ろにハンターが・・・いた！」

エルトリゼ「本当か！」

といい、二人は逃げる。

ハンター「！」

曲がり角のハンターもきずいた。幸い、挟み撃ちにはならなかった。

シヨウ「やばい、このままじゃ捕ま・・・」

ラグナ「ああああああああ」

上からラグナが落ちてきて、ハンターがひるむ。

ラグナHP 1 0

ラグナ 強制失格 残り2名

シヨウ「ラグナ・・・死して屍拾うものなし・・・」

といい、シヨウとエルトリーゼは城へ向かった。

ゲーム終了

結果

マリオ ゲームクリア +2万 ライフアップキノコ獲得

ユーゴ 失格

シヨウ ゲームクリア +3万 アイテム未獲得

エルトリゼ	ゲームクリア	+3万	アイテム未獲得
アゼル	ゲームクリア	+2万	ツインキノコ獲得
マイス	ゲームクリア	+2万	ビリビリキノコ獲得
ラグナ	失格		
ソニア	失格		

これにより、ゲーム終了残り64分からは7人で挑戦することになった。

さらに、逃げ切ったときの賞金も、129万円となった。

続く！

サブミッション2-3 ボーナスマゲーム 苦労してる人たちは・・・(後書き)

ミッション続くなあ・・・

ドラマ 石版の正体（前書き）

なんかろーぷれ9巻で大変なことが起きたよ！

ドラマ 石版の正体

アリスの家

アリス「石版・・・どうなったのだろうか・・・」

ラビ「さあね。でも、1枚残ったのを運び・・・!？」

アリス「ら・・・ラビ？何があったの？」

ラビ「大変だ・・・僕たちは大変なことをしてしまった・・・」

アリス「へ・・・？」

ラビ「この石版の真ん中の5桁の数字。『96183』この数字の意味が分かる？」

アリス「96183？ まったく分からないけど・・・」

ラビ「これは語呂合わせだともうから、『黒い闇』だと思っ」

アリス「黒い闇・・・？」

ラビ「僕は昔聞いたことがある。この世界を破滅の寸前まで追い詰めた黒い闇、バグの話を・・・」

アリス「ま・・・まさか・・・この石版は・・・」

ラビ「バグの・・・封印の石版だ・・・」

謎の存在「……やはりな」

F「こ……ここはゲームを中止しましょう！」

R「いや、この、ままでは納得しない人がいますよ。あくまでこのエリアは本物でないにしろキノコ王国がエリアに入っています。マリオさんが納得するはありますがありません」

謎の存在「となると……S！お前だったらどんなミッションを出す！」

S「僕でしたら……エリア移動ミッションですね。それと同時に、牢獄者救出ミッションも同時に出します」

謎の存在「そうか……ならばそれで行く！」

それと同時に地下の迷宮に5個の宝箱が設置され……

ミク「！何かレバーがあります！」

ユーゴ「なんだ……？」

牢獄の近くにある機械が設置された……

ミッション3・1+サブミッション3・1 危険を冒して(前書き)

・・・後10話もかからないと思いますね。多分ですが。

ミッション3・1 + サブミッション3・1 危険を冒して

『ピコニー』

マリオ「ゲーム再開のメール・・・ミッションかよ！」

ドナルド「『これより森エリアから地下迷宮に入ることができる。しかし・・・』しかし？」

シヨウ「『地下迷宮には残り50分に開放される100体のハンターが入っているハンターボックスがある』100体!？」

カービィ「『阻止する方法はないため、逃走者は新エリアへと行かなければならない』」

エルトリゼ「『新エリアに行くにはエリアのどこかにある鍵を使い扉を開けその先にある宝箱の中に入っているパネルを逃走者全員で5枚すべて集め、牢獄前へ持って行け』」

アゼル「『また、赤い宝玉を持って行き、牢獄前のレバーを2人で同時に降ろせば、現在つかまっている6人の逃走者を復活させることができる』」

ミス「『復活させるかは逃走者しだいだ』・・・復活させたいな・

・
・
」

ミッション3 新エリアへと移動せよ！

現在開放されたエリア、『地下迷宮』には100体のハンターがはいつているハンターボックスがある。

ハンターはゲーム終了残り50分にエリアに放たれる。

逃走者は残り50分までに新エリアに移動しなければならない。

新エリアに行くには、逃走者全員で協力して地下迷宮にある5枚のパネルを牢獄まで持っていかなければならない。

パネルを手に入れるには、地下迷宮のすべての扉を施錠しなければならない。

パネルがそろえば残り50分まではすべての逃走者が新エリアに行くことができる。

残り50分になるとハンター解放と同時に新エリアへ行くためのアイテムがバグにより消滅してしまうのでミッションクリアできなければ確保を待つか自首をするしかない。

サブミッション3 確保者を助けろ！

地下迷宮のどこかに赤い宝玉がある。

それを牢獄に持って行き、その後二人同時にレバーをおろせばこのミッションが発令する前に捕まっている6人の確保者が全員復活できる。

復活させても特に利益はない・・・

マリオ「復活もさせたいしそれに・・・これ、普通行くだろ・・・」

カービィ「とりあえずまだハンターは解放されてないから行こう！」

ドナルド「ドナルドはこのミッションに参加するんだ」

シヨウ「ユーゴを助けるためにも行こう！」

エルトリーゼ「行こうと思うが・・・鍵ってどこにあるんだ？」

マイルス「よし、行こう！」

アゼル「これ行かなきゃいけないだろ・・・」

全員がミッションに向かう。

カービィ「・・・森だけど・・・どこにいけばいいんだろう・・・？」

アリスの家の近くにいるカービィ。

地下迷宮は近くにある大きな木の幹にあいている穴だが・・・

カービィ「・・・木になんで扉が埋まってるんだろう・・・」

まず、入り口に赤い扉があり・・・

エリアのどこかに赤い鍵がある・・・

それはどこだ・・・

ゲーム終了残り60分

残り7人

続く！

ミッション3・1+サブミッション3・1 危険を冒して(後書き)

扉と鍵の色はそれぞれ開けられるを意味します。

ただし、同じ色の鍵もあります。ですが、同じ色でも、どちらを空けるかは選べません。

つまり、

扉赤(AとBのルートにいける)

Aルート 青鍵 赤扉

Bルート 赤鍵 青扉

こんな風に、結局は使える鍵の場所は決まっています。

ミッション3・2+サブミッション3・2(前書き)

牢獄トーク

ガシャン!

ミク「え?え?」

ユーゴ「・・・分断された?」

魔理沙「多分あれだな。復活できる人をここの6人にするためだな」

ミッション3・2+サブミッション3・2

赤い鍵は・・・

アリスの家の扉についている・・・

しかしそれは誰も知らない・・・

当然、逃走者も・・・

しかし・・・

シヨウ「ここに鍵が・・・」

偶然シヨウが鍵を見つける・・・

シヨウ「どこだ！ 地下迷宮！」

マリオ「多分あれだ・・・ハンターに追われて偶然ミッションの場
所に来たってシュミレーションが来るな・・・」

マリオの近くにはハンター・・・

ハンター「・・・！」

見つかった・・・

マリオ「え？ あっちにいつてるけど・・・」

ハンターが見つけたのは・・・

エルトリゼ「見つかったか！」

エルトリゼだ・・・

ハンター「！」

しかし、前からもハンター・・・

エルトリゼ「・・・」

『ボン』

エルトリゼ 確保 残り6名

『ポロン』

マリオ「・・・全員で新エリア行きたかったな・・・」

カービィ「・・・あれ、今どこかで声がしたような・・・」

アリスの家の裏にいるカービィがあり巢の家の前にいるシヨウウにき
すく。

アリス「ちょっと！　うるさいわよー！」

シヨウ「え、はい。すいません」

カービィ「あ、シヨウー」

シヨウ「あ、カービィ、鍵を見つけたけど、地下迷宮見つけた？」

カービィ「！　こっちにきてー！」

シヨウ「ここに鍵をさせば・・・」

『ガチャーン！』

「「地下迷宮・・・」」

地下迷宮の扉が開いた・・・

カービィ「とりあえずメールしよう！」

シヨウ「そうだね。メールしたら行くところか」

カービィ「送信！」

ゲーム終了残り56分

残り6人

続く！

ミッション3・2+サブミッション3・2（後書き）

Q 何故シヨウは叫んだ？

A エルがつかまつたからです。原作見れば絶対意味が分かるよ。多分。

ミッション3・2+サブミッション3・2 エリア遂に崩壊(前書き)

鍵・・・ほとんど登場しなかったな・・・

それとHPについてですがトラップやスタミナによりかなりHPが減っています。

『ゴーン』

マリオ「お・・・」に「」に行けばいいのか!」

ミス「ちよつと遠いけど・・・行こう!」

ドナルド「ドナルドは今森にいるんだ」

アゼル「善は急げ!」

地下迷宮の場所が分かり全員が迷宮に向かう・・・

ドナルド「行くよ?」

まず地下迷宮にたどり着いたのはドナルド・・・

マリオ「よし!」

マリオも地下迷宮にたどり着く・・・

地下迷宮内

カービィ「あああー。時間がないよー」

シヨウ「落ちついてカービィ、あと1枚で揃うから・・・」

カービィ「わかったから早くあげよう！」

ガチャ

シヨウ「・・・は」

カービィ「つて、扉がまたあつた！」

シヨウ「しかも鍵穴が二つも・・・」

カービィ「も・・・戻ろう！」

シヨウ「あ、うん！」

ドナルド「到着！ 鍵も持ってきたよ」

カービィ「ドナルド！ 鍵ありがとう！ あと1枚なんだ！ でももうひとつ鍵が必要で・・・」

マリオ「その鍵もある！ ついでに宝玉も！」

シヨウ「やった！ 早く鍵を！」

マリオ「受け取れ！」

シヨウ「ありがとう！」

ガチャ

カービィ「最後のパネルあった！ 速く外に行こう！」

ミッション終了まであと3分。

外に出た4人は約500m先の牢獄へと向かう・・・

マリオ「おいマイス！ 速く行くぞ！」

マイス「え、わかった！」

しかし、悲しいことに・・・

カービィ「あ

カービィ H P O

カービィ 強制失格

マリオ「カービィ……」

シヨウ「悲しみに浸ってる暇なんてないのに！」

ミッション終了残り1分

マリオ「牢獄に着いた！」

ドナルド「マリオ、宝玉は！」

マリオ「今置いた！」

マリオ ドナルド「「せーの」」

ガシヤン

牢獄「やった！」

マリオ「じゃあ、新エリアで会おう！」

シヨウ「スターリングか！」

ドナルド「ドナルドは最後でいいんだ」

マイルス「速く行こう！」

アゼル「もう50分!？」

100体ハンター解放

アゼル「ぎゃあああああああああああああ」

アゼル 確保 残り10名

新エリアでの逃走は10名で行われる・・・

ゲーム終了残り50分

残り10人

続く!

マリオ「なんだ・・・？ 青い宝玉があっただが・・・」

エリアは新エリアへと・・・

謎の存在「10人か・・・」

F「少し多かったですでしょうか・・・？」

R「そんなことないわ。残り時間がかかり減るとはいえ、それでもミッションがあるから・・・」

F「なに大事なことをさっさと言ってるんですか！時間が減るって！」

S「絶望してるな・・・」

新エリア紹介。

今回のエリアは、スーパーマリオギャラクシーのほつき星の天文台を少し改造した感じのエリアになっている。

さらに、近くの銀河であるソウルタワーギャラクシーに行くことも可能。

それぞれ、架け橋が架かっている。

自首するには天文台にいるロゼッタに5枚コインを渡さなければならぬ。

ただし前エリアの自首用コインではなくソウルタワーギャラクシー

に登場する敵などを倒しコインを集めなければならない。

マリオ「そういえば……時間が止まってるな……」

マイルス「あ、本当だ」

ドナルド「とりあえず、6人と合流しよう」

ミク「あ、いました!」

ラムダ「まったく……違う場所に飛ばされるとは……」

マリオ「……飛ばされる?」

魔理沙「……俺たちは……大砲でここまで飛ばされたんだ……」

マリオ「ところで、この青い水晶はなんなんだ?」

牢獄前に来た逃走者たち

煉「ああ、それは……このタイマーの上に置くと……」

マリオ「タイマーに置くと……?」

50:00

49:59

49:37

48:15

35:53

25:00

10人「『『『『『へ?』』』』」

煉「マリオの活躍により、ゲームの時間が25分間省略されました。もちろん賞金もその分追加されます」

マリオ「作者、絶対これお前が書きたくなかったからだろ」

煉「・・・ハンター解放まで30秒前でーす」

マリオ「作者、覚悟してろよ!」

煉「そんなないからいいじゃんかー」

ゲーム終了残り25分

残り10人

続く！

エリアは新エリアへと・・・(後書き)

次回・・・

ラストミッション・・・？

ドラマ バグの猛攻撃（前書き）

ついに・・・

最後のミッションが始まる！

HPに要注意！

あと、ソウルタワーギャラクシーはオリジナルです。

ドラマ バグの猛攻撃

ゲーム終了残り25分。

3体のハンターがエリアに解放され、10人の逃走者がエリアを逃げる。

しかし、

ピーチ『そんな・・・こんなことが・・・』

バグにより、地面は底なき穴ができたり、人の大半が文字化けなど、地上は大変なことになっていた。

しかし、バグはまだ物足りず新エリアであるソウルスターギャラクシーの塔の頂点に向かっていた・・・

123

謎の存在『バグ・・・そろそろおとなしくなってもらおうか』

F『やはり、あれをやるんですか・・・』

謎の存在『ま、実験だよ。アイテムのね・・・で、もう戻ってきたんだらう？』

ルイージ?『はい。もどつてきました』

アリス?『私もいますよ』

前のエリアにいたはずの二人が、なぜかここにいた……

謎の存在『戻ってきたところ悪いが、もう一度、新エリアのほうに行ってくれないか？』

ルイージ？ アリス？『わかりました……』

すると、二人は飴細工のように姿が代わり……

双子のような少年少女になった……

謎の存在『そういえば二人は双子だったな……』

男の子『ほんとは5人兄弟なんですけどね……』

女の子『いつか会いたいな……』

謎の存在『……すまなかった。そんなことを思い出させて……では、頼むぞ。ハルト、セアルナ』

二人『……はい』

二人は、新エリアの塔の頂点へと向かった……

ミッション4 (前書き)

少々テンポが速くなります。

宇宙での追加ルール。

走ってもHPがマイナスされない。

HPが3にスーパーマリオキャラクターシューッぽく全員固定

それにより回復エリア廃止

ミッション4

残り25分で逃走者が10人となる。

ハンターは5体となり、最後のミッションが始まる???

「ピコン！」

マリオ「！ もうミッションか！」

ミク「ソウルタワーギャラクシーに向かってバグが進行してきた
「って！！」

マイルス「ゲーム終了残り15分になるとバグがエリアに届き封鎖
される」半分以上のエリアが!？」

ユーゴ「阻止するには頂上にいる双子に話しかけ、バグをここか
ら遠ざけねばならない」

ミッション4 バグの進行を阻止せよ！

残り15分になるとバグが塔にたどり着きソウルタワーギャラクシ
ーが封鎖される。

そしするには頂上にいる双子に頼まなければならない。

尚、このミッション中敵が強化されるので注意！

マリオ「塔を登るぞ！」

塔は8階が頂上となり、上がるほど敵が強くなる。

しかし敵は無視しても突破できる。

急いで塔を登りきれ！

魔理沙「って、ちよっ！うわあああああ」

しかし敵はどこに潜んでいるのかはわからない！

油断すると潰される！

霧雨魔理沙 失格 残り9人

(魔理沙はドッスンに潰されました)

マリオ「ついた！ っ て、いた！」

ハンタ「??? 久しぶり いや、初めまして」

セアルナ「逃げた方がいいわよ」

マリオ「久しぶりって、ハンター、セアルナだムグツ!!」

セアルナ「ソナナコトイツチャ駄目ソナナコトイツチャ駄目ソナ
コトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目
ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチ
ヤ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコト
イツチャ駄目

逃走中だとハンターと被るからハンタにしたんだから???ネ?

マリオ「ああ????分かった???で、バグは」

ハンタ「無理。悪魔が妨害してるから、下の階にいるから倒してき
て」

マリオ「了解!」

果たして悪魔の正体は!

ゲーム終了残り19分

残り9人

続く!

ミッション4 (後書き)

煉「ドツペルゲンガーたちの性格とか残り3人の名前忘れちゃった」

セアルナ「???ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目
ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツ
チャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコト
イツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソ
ナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄
目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツ
チャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコ
トイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソ
ンナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ
駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイ
ツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナ
コトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目
ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ
駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツチャ駄目ソナコトイツ
チャ駄目」

煉「???はい」

ハンタ「後俺の名前をもう少し良くしろ」

煉「了解」

ミッション4 その2(前書き)

煉「これからはハツヤだ！」

ハツヤ「分かった」

セアルナ「よかったね」

ミッション4 その2

ドナルド「やっちゃおうよ……アラア！」

ドナルド エリアの隅で戦闘中。

ドナルド「うん、HPがもう1だね」

ドナルド「はい、おしまい」

ドナルド 失格 残り8名

マリオ「ここに悪魔が……」

カービィ「なにものかな？」

ソニア「行きましょうー！」

ユーゴ「ああ……」

ガチャ キー……

マリオ「お、お前はー！」

????「ようこそ。僕の所へ」

マリオ「誰？」

「????」つて、忘れてるのかい!？」

カービィ「いや、本当に会ってないんだけど・・・」

「????」あ、確かにいないわ」

マリオ「結局、お前は？」

「????」僕の名前は十事 悪魔で人を殺すのが大好きなんだ」

謎の存在「あいつ、弱いよな？」

R「なんでもそこにいるかって思うくらいですね」

マリオ「カービィ、ユーゴ、ソニア、倒すか」

十事「僕のこのナイフは、人の心臓に向かって刺さるんだ・・・え
「ゴードスエンブレム!」ギャアアアアアアア」

ミッションクリア!

少年 少女「いくよ! バニッシュユ!」

それと同時に、ある程度のバグが消滅。しかし、バグはまだ倒れて
いなく、ほつきぼしの天文台へと向かうのであった・・・

残り8人

続く！

ミッション4 その2 (後書き)

十事 めっちゃくちゃ弱いぞ。

ミッション4F その1(前書き)

ゲーム残り12分

最後のミッションが始まる・・・

残り4人

マリオ

ユーゴ

ショウ

ソニア

ミッション4F その1

ピコン！

マリオ「ミッション4F！」
ファイナル

ユーゴ「エリアの天文台にバグが進行！」

シヨウ「残り5分になるとバグがシステムごと呑み込み、ゲームは無効。賞金は無しとなる

は！？」

ソニア「阻止するには、全員が天文台に設置されたレバーにスターピースを充電して、逃走者全員でレバーを下げる」

ミッション4F エリアを守れ

エリアに設置された、星屑砲発射装置。通称・スターダストブラスタワー。にスターピースをある程度入れて、逃走者全員でレバーを降ろさなければ、ゲームは無くなる。

残り10分

続く！

ミッション4F その1(後書き)

この逃走中の反省点。

効果を生かしていない。

というかすでにグダグダ。

ミッション4F その2(前書き)

もはや自分でも何をしたいのか分からない・・・

あとこれも入れて3〜4話で終わらせる予定です。

ミッション4F その2

マリオ「よし、スターピースを集めるぞ！」

スターピースはエリアに散らばっており、星葛砲に必要なスターピースは500個！

全逃走者が協力して集めなければならない・・・

ユーゴ「このスターピースって・・・大きいよな」

シウ「これを使えば250個分とかかな？」

ユーゴ「とりあえず、これを持っていけばかなり有利になるはずだ」

ソニア「もう無理よ！」

エリアには3体のハンター・・・

ハンターに捕まれば意味は無い・・・

ポン

ソニア 確保 残り3名

ソニア「ミッション・・・大丈夫かしら・・・」

マリオ「チャージ！」

充電 87 / 500

マリオ「よし・・・」

ハンター「！」

って、おい！

ポン

マリオ「嘘だろ・・・」

マリオ 確保 残り2名

ユーゴ「もう残り2分！ って、もう俺たちしかいない！？」

シヨウ「ついに見つけた！」

ユーゴ「足りるか！？」

発射可能！

ユーゴ シヨウ「せーの！」

ガシャン！

ミッションクリア

天文台から放たれた光の束はバグを突き抜け・・・

平和を取り戻した。

ゲーム残り5分

次回完結！

ミッション4F その2(後書き)

自分でも訳がわからない展開に・・・

ゲーム終了(前書き)

やっと完走。

もう、完結します。

ゲーム終了

ゲーム終了まで残り5分。

逃走者はユーゴとシヨウの二人。

しかし、彼らの近くに・・・

ハンター「・・・！」

見つけた・・・

ユーゴ「！ 見つけた！」

シヨウ「逃げるよ！」

ユーゴ「あっ！」

ポン

ユーゴ 確保 残り1人

シヨウ「ユーゴが捕まった！」

残り2分。

逃走者は残り一人。

ハンター「……」

シヨウ「大丈夫、ばれてない……」

ハンター「……！」

ポン

シヨウ 確保

G A M E O V E R

カービィ「シヨウ確保！ G A M E O V E R」

牢獄メンバー「ええー……」

シヨウ「すいませんでした……」

マリオ「いや、全員捕まったんだし、むしろ謝る必要はないと思うが」

secondに続く！

ゲーム終了（後書き）

いかがでしたか？

もはや分からない展開になり、自分でも分からないので、GAME OVERで終わらせました。

secondはまともな作品なのでよろしくおねがいします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3157r/>

もうひとつの逃走中 ゲーム世界に潜むバグ

2012年1月2日01時48分発行